国語の授業づくり分科会　　　助言者　男山先生　　その他参加者４人

簡単に自己紹介をしたあと、それぞれが国語の指導で困っていることを出し合った。

・３・４年生の複式学級で異なった文学教材を指導していくとき、話し合いを同時に行うことなど大変なことが多い。

複式学級では2つの学年を同時に見ていくわけだから、指導者が一番大変。そういう時こそ書く事を大切にして、課題に対して自分の考えを書かせている間に、別の学年で話し合いをさせるというやり方をとってはどうか。

・教師が教えたいことを子どもたちにわからせることが国語の授業だと思っていたが、学び合いの授業に取り組んでから、そうではないと気づいた。子どもの考えを聴くということを大切にして授業をしていると、子どもがどんな反応を示してくれるか、どんな意見を言ってくれるかと考えていると授業が楽しくなってきた。でも意見を言わせっぱなしではいけないので、そのあとどのように授業を組み立てていくのかがやっぱり難しい。

　このことを教えたいと思っていても、それが本当の子どものもののなるとは限らない。その教材を通して子どもが自分の考えをつくりあげていくことが大切。話し合いを豊かにするためには読書や日記などを通して、取り込む言葉を増やしたり、自分の生活を耕したりして、その子自身に力をつけてやることも大切。

・ガチャガチャしているクラスでなかなか授業が成立しないが、文学教材では多様な意見が出て、楽しい授業ができることがある。

パワーがあるクラスなのでどのようにまとめていくかが大事。子どもたちにルールを決めさせてはどうか。先生が「こうしなさい」と言っているあいだは聞かない。クラスの子どもたちにぴったり合った教材に出会うと授業で盛り上がることもある。子どもたちを見直すきっかけになる。教材が力になることもある。

・子どもたちは書く事が苦手。書きたいことが見つけられない子が多い。

　「今日の宿題はお手伝い。そのことを日記に書いておいで」などと種探しに困っている子がいる場合にはこちらが与えてやることも大切。また書かせたいと思うような日記などを紹介してやったり、クラスの子どもの日記を読んだりして先生が褒めているうちに、子ども同士で褒めることができるようになり、書く事を通して子ども同士をつなぐことができる。また日記は子どもとの信頼関係を作るものにもなる。

参加者の感想より

・少人数でじっくり語りあえ、明日へのヒントが見つかりました。押しつけではなく、子どもたちの手で進めていくことはやはり大切ですね。ずっと静かにはできなくても、これからも素敵な考えを聴き合えるクラスを目指して頑張りたいと思いました。

・少ない人数で丁寧に答えていただいて、すごく得した気分です。書くことの大切さを改めて教えてもらうと同時に、複式の授業にも使えそうなので早速来週から実践してみます。